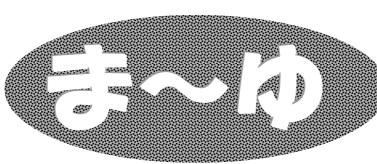
上田地域もの・こと交換制度

電部 (らぶ







蚕都くらぶま~ゆ会報





ま~ゆ 連絡先

〒386-0001

TEL/FAX

メールアドレス

代表 安井 啓子

上田市 上田 2576-16

27-3186

ma-yu@po9.ueda.com

ホームページ(検索エンジンで 地域通貨 ま~ゆ を開いてください)

温暑なんのその

享用

まーゆ」は、上田市

采斤

畳

2004年(平成16年)8月26日 木曜日

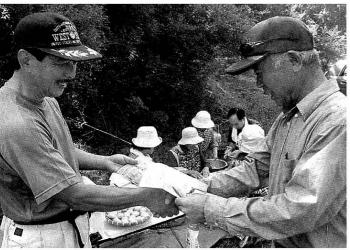
E

り、何まーゆかな」「じ

した。 から同じ額でコンサート のチケットを「購入」し 中島さんは後日、別の一 田さんは「マイナス千」。 ラス千」と記入。逆に柴 (59)は自分の通帳に「ブ 手伝った中島邦夫さん

通帳だった。 判の紙を四つ折りにした 「昨日のジャガイモ掘

やあ、千まーゆで」 さん(62)が通帳を取り出 区。収穫した野菜を持ち 手伝ってもらった柴田博 前日にジャガイモ掘りを 寄る青空パーティーで、 上田市諏訪形の須川地



学んだ有志約30人が始め したかった」と安井さ を交換することで、人と 元の勉強会で地域通貨を ってしまった。地域通貨 て、大事な人の縁まで切 人とのつながりを取り戻 まーゆは01年11月、地 「何でも円で解決し

たが、実際に入会するに らまーゆが気になってい は時間がかかった。 会員の一人。設立当初か 前田美枝子さん(58)も 活気を取り戻しつつあ 通貨が紡ぐ縁で、 る」と力を込める。地域 ら、きっとかなえられ り、会員は約140人に

ら夢物語だったけど今は お酒を造ること。「昔な ーゆの仲間と作った米で

違う。ここの仲間とな

った中島さんの夢は、ま

ジャガイモ掘りを手伝

ん。人の輪は徐々に広が

まで増えた。

まちに活

った地域通貨の現状と課題を探りました。

(西山阜

こと」を書かなければな

県内に地域通貨が誕生してから5年。ブームから定着へ。新たな段階にマ 利用者の輪が広がらず、苦戦を強いられている通貨も少なくありません。 お金でない。そんな不思議な通貨が県内各地で生まれています。一方で、

地域通貨」という言葉を耳にしたことはありませんか。お金であって

その「お金」は、A4 | 内の市民グループ間で流 | とりした月日と相手、内 通している地域通貨。地一容、支払額を書き入れる 域の特産だった繭から名|欄があり、これ自体で通 付けた。通帳には、やり 貨の役目を果たす。

「ま ゆ \equiv

分に力がなくても、ここ のネットワークがあれば く人にものを頼める。自 何でもできる」と代表世 は胸を張る。 話人の安井啓子さん(54) まーゆなら気兼ねな

会を決め、今では田んぼ している。 信をつけた前田さんはス にも出番があった」。 ら歓声があがった。「私 れた。親の手伝いで慣れ や畑仕事の手伝いで活躍 ている前田さんが手際よ の会員から田植えに誘わ 、苗を植えると、周りか そんなある日、まーゆ

かばなかったのだ。 分にできることが思い浮 らない。「ただの主婦に できることって言われて も……」。前田さんは自

ること」と「してほしい 会員になるには「でき

-1 -

盛夏に青果の成果を味わいました みんなのカで

んなのかで みんなが味わう心地よさ! おいしかった



NBSと朝日新聞の取材がありました







料理隊長ハシのみせどころ



本場(?)の手料理



元気な須川の先輩に熱弁を振るって いただきました



国部 くらぶ 記~ 切

& 上田良ちづくりワークショップ

4月にヒデさん、ハコさん達のワークショップ "まちづくり"の講演会で安井代表に《地域通貨、 人と人の交流の大切、環境を守ること、地産地消、 諸々》を話してもらいました。

原町商店街の活性化をということだったので すが出席者が少なく残念でした。が、ごんべえさ ん、孫の手さん、疲ろぼうさん、都々平さんなどの 忌憚の無い生きた意見に"かつ"が入りまちづく

りワークの仲間が即、ま一ゆの仲間入り。この中に原町の良さを何とか生かして人の行き交う

町にと頑張っている吉崎さんがいたわけです。

そんなこんなの話の中で、"食べる・飲むこと" 大好き、これが生きる基本だ"と考えてる面々の 意見が一致して、多少の変則は無視、蛭沢川の流 れに耳をかたむけ、白壁土蔵にみどり優しい柳の 揺らぎ、これ以上の舞台はないでしょう。これが 吉崎酒店だったのです。



7月10日はスコール状態の大雨。4時を待って駆けつけると、ヒデさんはもう溜まった雨水 の掻きだしに奮闘中。次々集まってくれた皆さんの作業の早いこと。 まーゆは凄い。 ダンボールはドンドンたたまれ積まれて再資源。ビールの空箱も洗

われてテーブル台や腰掛に早変わり。

もち込まれたもつ煮は2つの寸胴鍋につくりなおすことに。料理長 のテル坊さん間にあわない今、やるっきゃない。ミィーすけさん、ま ちづくりワークショップから入ったばかりの手塚さんの奮闘で美味 しい鍋の仕上がり。

あれやこれやの中で薄日もさしてきてご馳走片手のメンバーがぞ くぞく集合。ムードは高まるばかり。

待ち切れなくなった一部の人が一寸飲み始め食べ始めちゃったもん だから、肝心のヒデさんの開会挨拶が後先になり酔いが回っちゃた人 も出て、ここは猛反省しなきゃ…。次に活かします。

なかなか向いてもらえないで居た"街"の人が焼き鳥の差し入れと 共に入会。ほんの少しだけどやってきたことが「実った」と感じられ て一寸嬉しかった。

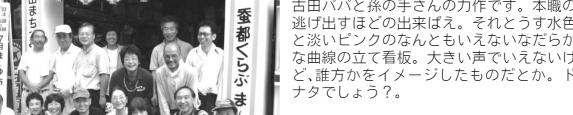
楽しく食べて飲んで盛り上がってウン十歳若返って青春の歌に酔いしれる。 ホーおじさんのき れいな声、目を閉じて(?)聞くともっと良い。

ただあまりの楽しさにビールの空き方も半端じゃなく皆さんのカンパに甘えさせてもらいまし た。ありがとう御座いました。

大事なことがあとになってしまいまし た。 入り口にあった立派な看板に気がつかれま

した? 古田パパと孫の手さんの力作です。本職の

逃げ出すほどの出来ばえ。それとうす水色 と淡いピンクのなんともいえないなだらか な曲線の立て看板。大きい声でいえないけ ど、誰方かをイメージしたものだとか。ド



吉崎さんにはお店を挙げて協力していただ きました。

皆さん、吉崎酒店ご利用ください。 言い出しっぺの私から皆さんにありがとう のご挨拶に代えさせてください。





あとがき

ただ大きいだけのジャスコ、駐車場で迷子になりました。重いものをカートで運ぶなんて嫌だ。受け渡すカウンターもないし。無くてもいい静かな住宅街のスーパーが24時間営業になり、住む側にとって良いことより嫌なことのほうが多い情況。

向きあって話が出来、新聞紙に、大根やにんじん包んでもらい、お年寄りには「あとで届けるよ」と声が掛かる、そんな小売のお店を懐かしく思うのは私だけかしら?何十年もかけて"便利

さ"を追い求め、その結果人と人が触れ合えた"少し昔"を懐かしむ。

年を重ねた私には巣鴨のような人でにぎわう、足で歩ける、気楽に食べて話しのできるような"まち"が欲しいのです。そんな想いがあって"まちづくりワークショップ"続けています。







コンニチワ!!

今年春先より仲間に入れさせていただきました吉崎です。

入会後、早速7月10日の原町蛭沢川納涼夏祭りに当店裏の広場を使っていただきました。 当日は時間前から大勢の方々が、お手伝いに駆けつけてくださり、手際よく準備をされてゆく様子は何と手馴れたことか、本当に感動しました。宴たけなわで、雨のために場所を移して倉庫いっぱい、大勢の皆様と共にわいわいと歌ったり賑やかに時を忘れる様に本当に楽しいひと時を過ごさせていただきました。ありがとうございました。

皆様の和を大切に大変和やかな雰囲気、そして個性豊かな方々の内に秘められた才能と不 思議なエネルギーがそこここに感じられ、この出会いに対し心から感謝しております。何の 取り柄もない私ですがどうぞよろしくお願い致しします。

No.126 吉崎恵美子



No.130 ヒデさんこと竹内秀夫さん

自然を愛し、地域を愛し、人を愛し、9匹の猫を愛す人

太郎山の東の峰をイメージしたドーム型の屋根"都市・建築工房,はヒデさんの住宅を兼ねた建物です。このデザインは周囲の景観に合わせたとのことで、彼のこだわりぶりが伺えるようです。

にゃんこ先生こと紀子夫人と猫9匹の大家族(?)で、この家には猫の生活を考えた数々の工夫が施されています。猫好きの私はとても興味深く見学させていただきました。(詳細は後日紹介していただきましょう)。

一昨年ま~ゆに登場して、5月のまち歩きで擬洋風建築を紹介してくれたヒデさんは6年前、故郷上田に戻ってきました。本業は建築設計で、「地球環境への配慮をベースに、より多くの人が心地よいと感じられる空間の創出をめざしています」とホームページで訴え、依頼のあったお客には環境を重視した家づくりのメリットとデメリットを説明して、その上で意向にあった設計をしているそうです。また、昨年発足した"うえだ環境市民会議"の議長としても活躍されて、21世紀を地球環境再生の世紀とするためには一人ひとりの意識改革と小さな努力の積み重ねが重要と考えて、地道な努力を続けてもいます。



"環境に配慮した(自然と共生する)農業 "ヒデさんのライフワークには3本の柱があって、その2番目はこれです。東京に住んでいた頃、スーパーで買ってくる野菜を「美味しいと思ったこと」がなく、田舎に帰ってきて食べた野菜の旨さを知ってからは、「もう、自分で作るしかない」と思うようになったとか。幸い上田市が公募した環境基本計画策定懇談会に同席した人が無農薬・有機栽培にこだわった農業をしていたので、そこのお手伝いをすることになりました。ま〜ゆの田んぼや畑に来て一緒に働くのも、この精神から発していることは言うまでもありません。

3番目の柱は"まちづくり"です。こよなく上田を愛するヒデさんは、中心市街地が寂れていく姿を見るに忍びなく、ま~ゆ会員のハコさんらと共に、5年前《うえだまちづくりワークショップ》を立ち上げました。建築を学び、それを仕事として常々「魅力のある街って何だろう」と考えてきたヒデさんは、そこに住む人たちに地元のよさを再発見してもらうよう努め、「行ってみたくなるまち」・「住んでいる人や働いている人が生き生きしているまち」こそ活力のある街だと訴えてきました。そして今年の夏には、ま~ゆと協賛で"蛭沢川夏祭り"を断行(?)しました。これが契機になって、ややもすれば目先の売り上げばかりに捉われがちな商店街に、視点を変えた新しい方向性が生まれてくるかもしれません。

いつも冷静なヒデさんの目は、同時に地域社会に温かな視線を向けています。次のページは上田法人会が企画した「お父さんの手紙」に入選した作品です。"まちづくり"にこだわっている理由を理解するチャンスと判断して掲載しました。

No.130 ヒデさん

晴や雨の天気ではない。今までとは違った方向へ歩む時機という意味の「てんき」である。「転機」と書けばよさそうなものだが、私のそれは漢字で書くほど劇的なものではなかった。

ビオトープの概念がわが国に紹介された 平成3年、私は都市計画事務所に勤めなが らニュータウン開発の計画づくりをライフ ワークと信じ、いつかは人口3万人規模の 新都市を自分ひとりの手で描き上げようと、 今から思えば傲慢な夢に取り憑かれていた。

当時のビオトープは、人の手を一切加えない生物の棲息環境で、最低 2ha の面積が必要とされていた。この面積は近隣公園の広さに等しく、これが私にとって大きな意味を持った。ビオトープが近隣公園の一角に納まる規模なら何も問題はなかった。だが同規模となると、公園全体をビオトープにしなければならない。そこには人工の池もせせらぎも散策路もあってはならない。そんな場所をニュータウン内に計画するのは不可能だった。

それまでは、蛍が舞うせせらぎや、アカマツ林内の散策路や、石組みの池など私の原風景を計画にちりばめてきた。しかしビオトープの概念を知ってからは、それらは陳腐なものにしか思えなくなっていた。いくら環境保全を心がけても、開発は所詮環境破壊でしかないとも気づかされた。

平成8年、事務所を引き継ぐかどうかの 選択を私は迫られた。今まで通りニュータ ウン開発に関わり続けるか否かの選択でも あった。私の中でそれはもはやライフワー クではなく、決断は簡単に下せた。

翌年ニュータウン開発から遠ざかり、平成10年末、ふるさと上田に戻った。ところが回復の兆しが見えない鍋底景気の真っ只中、建築設計の仕事は殆どなく、数種のアルバイトで食いつないだ。それにも拘らず上田のまちづくりにボランティアで参画したのは、建築設計以上にまちづくりは私が私である証だったからだ。相変わらず生活は苦しいが、上田のまちづくりは私のライフワークになった。

のび太から皆さんにお願いがあります。

日頃、道を歩いていて、自転車に乗っていて、危ないなぁと思った場所がありましたら お知らせ下さい。

いわゆる交通弱者から見た本来の"道"ではなくなった道を自分のHPに写真付きで載せようという企画です。もちろん個人のHPなんてのはしょせん自己満足の世界。まとめたものは何らかの形で行政に提言したいと思っています。

クルマに乗っていて危ない!と感じた事、場所でもいいですのでどうぞ遠慮なくお寄せ下さい。

夏休みに軽井沢までサイクリングに行ってきました。 その様子を載せましたので よろしければ 下記アドレスからご覧下さい。

http://www9. ueda. ne. jp/~juntoe/

麦秋」

ました。
こんにちは。八月から会員になった竹内に入りましたので、正式に入会させて頂きが、こうして自分で言うとものすごく恥ずが、こうして自分で言うとものすごく恥ずが、こうして自分で言うとものすごく恥ずに入りましたので、正式に入会させて頂きに入りましたので、正式に入会させて頂きました。

ことから始めます。じゃがパーについてだそうですので、麦の早速原稿依頼がありました。イガチク粉か

「麦秋」という言葉は小津安二郎の映画のタイ「麦秋」という言葉は小津安二郎の映画のタイトルで知っていました。でも、私の育った材木下ルで知っていました。でも、私の育った材木をお出これがある。人年近く前の六月末にたまたま上田にいて、た。八年近く前の六月末にたまたま上田にいて、た。八年近く前の六月末にたまたま上田にいて、た。八年近く前の六月末にたまたまともありませんでした。八年近く前の六月末にたまたまと問じた。それが初めて見た麦畑です。中本のまとわりつくような人情とかしがらみ等本のまとわりつくような人情とかしがらみ等本のまとわりつくような人情とかしがらみ等本のまとわりつくような人情とかしがらみ等本のまという。

ていると思います。然が生み出した様々な傑作の中でもずばぬけわれたりもします。そして麦穂の美しさは、自われたりもします。そして麦穂の美しさは、自とは無縁な格好良さがあると思います。実際、

されていない粉で作ったうどんは、まるでおず、「麦刈りがあるけど行く?」と夫に聞かれ、きました。そして麦穂にちくちく刺されました。をしたでさえ暑いのに、ちくちくはたまりません。ただでさえ暑いのに、ちくちくはたまりません。ただでさえ暑いのに、ちくちくはたまりません。おした。草食獣に対する肉食獣みたいです。きれいな麦穂にはとげがあったのですねえいです。されていない粉で作ったうどんは、七月三日のこのように麦に憧れていた私は、七月三日のこのように麦に憧れていた私は、七月三日のこのように表に憧れていた私は、七月三日のこのように表にしていた。

ん。皆さんがなさっているのを見て、難しそ宅でおやきを作ったことは一度もありませ参加しました。私の母は南信出身なので、自参加しました。私の母は南信出身なので、自り、おやきにする作業に八月八日のじゃがパーでは、イガチク粉で

たくなりましたが。)

たくなりましたが。)

たくなりましたが。)

たくなりましたが。)

たくなりましたが。)

たくなりましたが。)

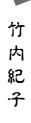
たくなりましたが。)

たくなりましたが。)

たくなりましたが。)

もしてこなかったかということですね。体験が色々出来て幸せです。いかにこれまで何どれも初めての体験でした。この歳になって初

いつも親切にして下さるまして下さるまいからもよろ



須川プロジェクトだより

No.2 ごんべえ 中島 邦夫

イガチク(懐かしの小麦)の収穫とうどんパーティー

みなさん「イガチク」ってご存知ですか?。知っている人は50代以上でしょうか。戦後しばらく農家にとって、米は大事な収入源でしたから出来るだけ出荷して、粉や雑穀、芋などを代用食と称して盛んに食べていました。この、米の裏作として栽培されていたのが「イガチクオレゴン」と言う小麦でした。奇妙な名前ですが先日No79こんちゃんこと近藤武晴さんから頂いたメールによりますと、「伊賀」と「筑後」と「オレゴン」の交配によって出来た小麦なんだそうです。(なんと会員のどなたかはイガがチクチクするのでイガチクだと思っていたそうです。実はこのごんべえもそう思っていました)

この子供の頃に食べた手打ちうどんの味が忘れられず、妙に懐かしく何とかならないかと思っていたところ、長野の知人が三年がかりで復活させた貴重な種 2Kg を分けてくれたので、昨年の10月16日、開墾したばかりの須川花水のま~ゆ畑に蒔きました。1ヶ月後、青々と芽を出し育ってきた麦畑の勢いの有る風景は感動的でした。(疲労坊さんは毎日のように見に行っていたようです)

空梅雨で晴天の続いた7月3日、大勢のま~ゆ仲間の協力で刈り取り脱穀をし、約70Kgの貴重な「イガチク」を収穫しました。10Kg は来年の種に残し、さっそく製粉したところ約50Kg の粉になりました。

7月19日、No.114宮崎さんのおたくで、地元須川の94歳の幸雄さんをはじめ、一郎さん清さん一男さん林平さん達を交えた、平均年齢60歳をゆうに越えたおっしゃん達の賑やかなうどんパーティーが挙行されたのであります。えっ!出来映えですか?食べた人だけが知っている。(冗談はともかくうどん一つでこんなに盛り上がったのはなぜでしょう)

なお、1Kg 300 円+200 ま〜ゆで販売したところ、みごと完売でした。集まったま〜ゆは事務局でキープして、循環させようと思っています。来年は今年の3倍の収量を予定していますので、大いに期待していて下さい。

お知らせ(今後の予定とお願い)

稲刈りと脱穀

- ・日時 10月 3日(日)朝8時より
- ・場所 ま~ゆたんぼ

麦蒔き

- · 日時 10月17日(日)朝8時より
- ・場所 ま~ゆ畑
- *天候によっては変更の場合もありますので、 改めてご案内します。



都々平さん&ミーすけさん夫妻「エコエコ家族」で表彰!

この夏、ビックハットで「2004年信州環境フェア」が開催されました。そして我が ま~ゆ会員の都々平さん、ミーすけさんの前田ご夫妻が栄えある「エコエコ家 族」の表彰を受けたのです(写真)。人間の営みで散々痛めつけられている地球、 その地球を救うのは他ならぬ人間しかいない。その救世主(?)的な人間が「エ コエコ家族」という事なのです。

何がどう、救世主的なのかはご夫妻の日頃の「エコエコ生活ぶり」を見ていた だければ誰もが納得されると思います。日頃おつきあいのある私も、まさか鼻を かむのに〇〇を使用しているとは想像もつきませんでした。



表彰式の挨拶で都々平さんは「これまではただのケチと思われていたが、地域通貨の仲間からすばらしいと 評価され、嬉しかった」と仰ってました。

ともかく消費することがステータスとなる社会はもう行き止まり。社会によけいな負担をかけない様に消費を 工夫しよう。と言うのがご夫妻のメッセージと理解しました。前田家で実践している「エコエコ生活」はとても沢山 あります。ホントです!これを全て実行している都々平&ミーすけ夫妻は仙人だ!なんて驚いてしまいます。

(ホーおじ)

地球にも家計にもやさしいエコ²ライフ(エコロジー&エコノミー)を実践しているエ コ²家族の募集には多数のご応募をいただき、ありがとうございました。厳選な審査 の結果、次の5組のご家族のエコ2ライフへの取り組みが優秀賞として選ばれました。 信州環境フェアの会場では、受賞したご家族を表彰するほか、ご応募いただいたご家 族の、環境に配慮したユニークな取り組みを紹介します。

舌信 機ご家族 須坂市 🤳

●太陽光発電によるCO₂の削減●雨水貯水による水資 源の節約●鶏飼育による残飯処理●生ゴミたい肥化に よる生ゴミの減量●簡易トイレに太陽光発電換気扇の取 り付け●緑のカーテンによる壁面断熱●除草剤を使わ ない農業 ほか

中西 幸縣 様 ご家族 豊科町 』

●ソーラー給湯器で太陽熱を利用●毎日の電気量の検 針で省エネルギー●風呂は1時間以内に続けて入る● 部屋をでるときは明かりを消す●テレビは主電源を切る ●ゴミの徹底分別とリサイクルを心がける●封筒も切手 をはがして再利用にまか

7月17日、信州環境フェアのステージで"エコ2家 族,の認定証をいただきました。数えて 4 回目のこの 催しを私は今年初めて知りました。たまたま、うえだ環 境市民会議に参加して関心を深めていた矢先に、ま~ ゆ会員でもある布施さんから「エコ2家族の募集がある けれど、どう?」と勧められました。 私にはすぐに乗せ られる癖がありますから、「じゃ応募してみるか」と即 答してしまいました。

去年 太陽光発電装置を設置したばかりでしたから、 エコロジーを訴えるには格好の材料と思ったのです。 しかし、エコ生活とは普段の心がけがあってこそで、 太陽光発電は投資額が大きくても評価はさほどではな かろうと考えました。

そのうちにハタと気がついたのは、親の代から続い ているケチケチ生活でした。明治生まれの両親は"大 正のガラ,と俗に言われている大恐慌と 第二次世界大 戦を潜り抜けてきた世代ですから、身に染み付いた節 約術を私に伝授してくれました。言ってみれば当たり 前のことばかりです。また、私の家の商売は代々超小 規模企業で、恥ずかしいくらいに売り上げも儲けも少 なく、毎日切り詰めた生活をしなければ"食っちゃぁい けない,,状態でしたから、"みっともない,, "けち臭い, "変わり者"と世間が見る目が気になっても、それを克

久保田 功 様ご家族 中条村

●昭和初期から鉄管で引いた清水を飲み水に●勝手、浴 場、便所は江戸時代からのものを改良●薪ストーブと足 踏みミシン●紫米の藁で作った草履わらじ●畑の雑草 などをたい肥化して利用●桂の木の葉を使ったお線香 ●山路の山吹栽培 ほか

様 ご家族 上田市。

前田 光俊 ●エアコンいらずの省エネ住宅(エ夫がいっぱい)●太 陽光発電●太陽熱温水器●薪ストーブ(灰は食器洗いに) ●花木の水やりは雨水と米のとぎ汁で●自動車はほと んど使わない●買い物袋は持参する ほか

様 ご家族 上田市

宮下 紘子 ●いわし丸ごと一匹捨てない活用法(ハエとり器など) ●お風呂の水を洗濯に利用●暑いときはよしずをさげ る●畑では山からの引き水を利用●木の葉やわらで畑 の肥料づくり●古布でぞうりやショルダーバッグづくり● 牛乳パックで椅子づくり ほか

服するしかありません。そのうちに(オソロシイ ことに)そんなことが苦にならなくなっちゃい ました。また、誰にも思いつかないウラワザを 考えて、それがうまくいったときには密かに快 感を味わうことだってあったのです。

そしてありがたいことに、こういう生き方が いまや未来派とまで もてはやされる時代に変 わって行ったのですから、みっともなさを積極 的にアピールする意欲が湧いてきました。エコ ノミーとかエコロジーとカッコいい言葉に置き 換ってもその精神は"ケチ,そのもの。「こいつ を並べてみよう」と毎日の生活を振り返ったの です。そうしたら、ありましたありました。な んと 29 項目にも及んだのです。「下手な鉄砲も 数撃ちゃ当たる」と言いますから、これによって 入賞したかもしれませんが…。

ホーおじさんが さわりを紹介してくれてい ますが、次の会報からシリーズでその実践例を 載せさせていただいて、何かの参考になれば幸 いと思います。また、一見は百聞に勝りますので、 いつでも実物をご覧になってください。かなり 自慢げにお話しするかもしれませんが。

都々平

昨年のお米、サツマイモに続いて、なんと今度は小麦粉「イガチク」…大久保さんに届けていただき現物に出会うまで、うまく製粉できないので麦のノギが混ざった「イガイガチクチク」した小麦粉を、ま~ゆ式命名方法で「イガチク」と言っているのだと思い込んでいました。その「イガイガチクチク」した小麦をみんなで「すいとん」や「お焼き」にして食べて、楽しんでしまおうと、ごんべえさんや、ひろ坊さんが呼びかけているのだと思っていたのです。

ところが本物に出会ったとき、袋に『幻のイガチク』と書いてあるではないですか…んんんっ… 私の思いはとんでもなかったことに気付いたわけです…本当に失礼致しました。

で、その小麦粉ほんとに今まで出会ったことの無い感触でした。

- ♥ 先ず手触り…やさしいのです
- ♥ 混ぜ具合......ふわあっとやわらかい
- ♥ 焼き具合......しっとり
- ♥ 食 感......うまい!

これは孫たちに作ってあげた「茄子の薄焼き」の感想

グルテン多いからかなと思いましたが…ま~ゆの須川産の農作物は、「美味しい・安全・安い」に「愛情(友情)」つきで、私の大好きブランドです。今年はほんとにお手伝いが出来ず申し訳ないのに、いろいろ味あわせていただき感激です。美味しい食べ物ってこういうことかなと思いました。須川田んぼプロジェクトの「ごんべえさん」、「ひろ坊さん」はじめ皆さんほんとに感謝です。 稲刈りは万難排してお手伝いに行きたいと思っています。

ま~ゆで あんなモノ・コト こんなモノ・コト 診断場 あぶりだし

○平塚らいてう展のお手伝いをして

いただきました

<u>杉山洋子さんがヒデさんから 1,500 ま~ゆで</u> (きれいにレイアウトできました)

○ 軽トラックを貸して 頂きました

<u>コボルさんが ごんべえさんから</u> (沢山の荷物が一度で運べて助かりました)

○ 花月文庫で有名な**飯島保作**(ほさく)の読みを教えていただきました

<u>ヒデさんが いじこさんから 500 ま~ゆで</u> (まち歩きで説明するので、助かりました)

○ビッグハットで写真を撮って

いただきました

<u>都々平さんが ホーおじさんと斉藤さんから</u> 1500 ま~ゆで

(信州環境フェアの会場まで出向いてもらって、 晴れがましいシーンを残していただいて感謝!)

○自転車の具合をみてもらいました。

<u>コボルさんが のび太さんから 500 ま~ゆで</u> (買って間がないのに、すぐタイヤの空気がなくなってしまい何度入れてもおかしいので、出張してみてもらいました。おまじないでもしたみたい。あれから 4 ヶ月タイヤの空気はそのままです。助かりました)

○ **はく製**を作る人を**紹介**して

いただきました

<u>都々平さんが ひろ坊さんから</u> 200 ま~ゆで (インターネットで検索しても分からなかったので、「もしや?」と ML に発信したら、見事。 ま~ゆって万能ですね)

○大きな味噌樽の内蓋を作って

いただきました

<u>三井さんが孫の手さんから</u> (おいしいお味噌を楽しみにしています)

※ **ま~ゆ**を使っていますか?。地域通貨は"使うため"にあるもので、タンス預金をしても何の意味もありません。 また、(今のところ)盗難の心配もありません。上の実例を参考にして「あつかましく」使いまくりましょう。 あぶり出しがページからはみ出すくらいになればいいですね。









10月ま~ゆ市 10月10日(日) よ37時~ 場所: 映公後館



ま~ゆ会報 ここに置いてあります

- フリーマーケット のんどり Tel 26-9355 上田市上田原·華龍飯店となり
- ネットワークハウス 縁舎 上田市下之郷 長福寺境内(生島足島神社隣)
- 熱 勝

Tel 29-3880 上田バイパス秋和 長野県酒販前

● 甲田はきもの店

Tel 22-1272 上田市中央4丁目1-24(木町)

- 都々平の自宅(前田商店の看板あり)
 Tel 27-1230
 上田市秋和(卸団地内)
- 上田市立図書館

Tel 22-0880

上田市材木町1丁目

も 七田チャイルドアカデミー™ 23-2952

上田市中之条 101-1 利幸第2ビル 201

"まち"で"はたけ"で ま~ゆのプロジェクトは元気いっぱい。

活躍の様子がテレビに新聞に紹介されて、知名度が高まってきたように思われます。

ま〜ゆに入ったことによって、知識を広げたり技を身に付けたり、中には 病を克服した会員さんさえありました。

日本銀行発行の絵葉書(?)では絶対に買えない不思議なパワーがこの地域通貨にあるようです。

このすばらしい買い物体験を一人でも多くの人にしてほしい。時にはあつかましく ま~ゆを使いましょう。

